

■^{にいなめ} ■^{ぬいぼ} 新嘗祭への献上米を収穫する抜穂祭が行われる

皇居で行われる新嘗(にいなめ)祭への献上米を収穫する「抜穂(ぬいぼ)祭」が9月23日、市内旭町の山本英幸さんの水田で行われました。

新嘗祭は全国各地の新米を神前に供え、収穫に感謝する宮中行事で、毎年11月23日に行われます。今年、市内で初めて山本さんの水田が「献穀田(けんこくでん)」に選ばれ、6月1日に「な

なつぼし」が植えられました。

抜穂祭当日は、雨天となりましたが、約40人が出席。山本梓さんら5人の女性が「御刈女(おかりめ)」として田に入り、稲の束を丁寧に刈り取りました。山本英幸さんは、「天候が不順なときもあって心配しましたが、よいお米が収穫できました」と、安どの表情を浮かべながら喜びを語っていました。



■^{あしべつ} ■ 芦別市文化連盟が創立60周年 にぎやかに市民芸術祭を開催



芦別市文化連盟主催の市民芸術祭が10月1日と2日、市民会館などを会場に開催されました。

昭和31年11月に設立された芦別市文化連盟は、今年で60周年の節目を迎え、1日には記念の文化交流会を開催したほか、「60周年記念誌」を発行し、現在同連盟に加

盟している書道や美術、俳句をはじめ、民謡、吹奏楽、ダンスなど幅広いジャンルの計27団体が、活動内容などを紹介しています。

市民芸術祭では、日ごろの活動の成果が展示会場やステージで発表され、訪れた方は芸術と文化の秋を楽しんでいました。

■^{たきかわ} ■ JAたきかわと市が高齢者のための地域の見守り活動協定を締結

たきかわ農業協同組合(JAたきかわ)と市は、「高齢者のための地域の見守り活動に関する協定」を結び、10月6日、市役所で締結式を行いました。

これは、Aコープ芦別店が今年7月に閉店したことに伴い、9月19日から移動販売車=写真=を運行。日常の販売業務に合わせて、高齢者宅

などの訪問先で異変を発見した場合、地域包括支援センターなど関係機関に連絡し、効果的に見守り活動を行おうというものです。

締結式に出席した工藤正光JAたきかわ代表理事組合長は、「高齢者だけでなく、子どもの見守りなどにも幅広く活用して地域に貢献していきたい」と述べていました。



■^{ほしざき} ■ 「日ごろの感謝をこめて幸せを届けよう」星槎祭が開催される



10月9日、星槎国際高等学校の学校祭「星槎祭」が、本部校体育館を会場に開催されました。

今年で17回目となった今回のテーマは、「幸せを運ぶ星と槎(いかだ)」。日ごろの感謝をこめて幸せを届けよう、との意味をこめたとのことで、開会式では生徒会長の坪田真さん(3年生)が、「ここまで

続けてこられたのは、先生や保護者、地域の皆さんのおかげです」とあいさつしました。

会場では、焼きそば、ホットケーキなどの模擬店や「地域のお店」など、どれも食欲をそそるお店が並んだほか、軽音楽演奏、カラオケ大会などが行われ、明るく和やかな雰囲気になっていました。